

曾於文藝

俳句

末吉俳句会

児等の声飛び交ふ園や春浅し

池田 安起徒

あたらしふ昏れゆく平成飛花落花

児島 泰代

つぼすみれ里一望の小さき丘

本浦 玲子

大陽俳句会

木の芽風名曲流るカフェテラス

福村 よう子

父母の齢を越ゆる暮春かな

逆瀬川 節子

古民家の手水に紅き落椿

岩重 みどり

青き踏む古き城祉の野の匂ひ

大川 満

短歌

末吉短歌会

イヌフグリ、ナズナの咲ける二月尽

雲雀よひばり着地を待てり

長倉 佳津子

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

ポケットに短歌手帳を忍ばせて
春をさがしにあそこまで行かむ

宝蔵 弘二

鬼監督と呼ばれいし日の遙かにて
夫縁先で柔き爪きる

森岡 ちどり

大陽短歌会

食卓のいっぴん石路の佃煮は

地産地消で添加物なし

川辺 敦子

春の日のグラウンド試合に発つ朝の
雪やなぎの白が眼にまぶし

伊勢 タミ子

道づれの愛犬「レオ」は恋人に
会うかのように唯まっしぐら

福元 たき子

財部短歌会

「目標は百歳です」
とあけのはる
卒寿の現し身くすぐるやうな

井上 澄子

千両を食べ尽くしたるヒヨドリは
ごちそうさまの鳴き声残す

児玉 次雄

八十路ゆく慌てず転ばずのんびりと
心ゆたかに一歩前へと

杉本 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

涙目も 一生の内な
相当ん在つ

古川 一幹

卒業式き 別れ涙で

浜田 一好

子ん涙 婆ん財布ん口つ
開けさせつ

桐野 奈世

爺婆をば ぐりつだまけた
嘘涙

鈴木 一泉

大陽薩摩狂句会

苛め遭つ 惜ね命つば
星しなけつ

津留 群志

蹠下さあ 未だ出来やいが
惜ねこつ

新名 武士

断捨離が 惜ね惜ねで
進まんじ

新屋 涼子

大吟醸 下戸ん婆あやれ
料理い使こつ

小倉 りんりん